

## 「資料目録 堀経夫資料」の整理・保存と公開について

井上 琢 智

### I. 堀経夫(1896-1981)の略歴

広島師範学校教授、御影高等師範学校校長を経て、関西学院高等商業学部の財政学講師を務めた堀卓次郎の長男として、函館で生まれた。第三高等学校在学中に、京都の吉田教会で受洗し、京都帝国大学在学中に、河上肇の影響から経済学史への関心を深め、大学院へ進学した。1922年、東北帝国大学法文学部助教授に就任し、23年から25年にかけて、イギリスを中心に留学し、古書・資料の蒐集に努めた。大阪商科大学教授時代の34年には、新設の関西学院大学商経学部および法文学部講師となり経済原論を担当していたが、敗戦後の48年に大阪商科大学を退職し、新制関西学院大学経済学部教授となり、54年には、経済学部長、さらに55年から10年間、関西学院大学学長を勤めた。定年退職後、四国学院学長、芦屋大学教授となった。73年には「経済学の父アダム・スミス」を御進講した。58年から10年間、経済学史学会代表幹事を勤め、66年には日本学士院会員となった。堀の業績は『リカードウ価値論及びその批判史』(1929)に代表されるリカードウ研究、『増訂版明治経済思想史』(1991)に代表される明治経済学史研究に顕著であり、その研究は、「原典主義」にもとづき、理論的接近と「自由と平等」をテーマとする社会史思想的接近を加味し、バランスのとれたものであった。



堀 経 夫 (1957 年頃)

### II. 堀経夫蔵書、史料・資料等寄贈の経緯

堀が生前蒐集した蔵書・資料は、堀が深く関わった大学に堀やご遺族によって譲渡もしくは寄贈された。関西学院大学図書館の特別文庫「堀文庫」は、チャーティズムを含む労働運動と英仏社会主義関連の文庫で、北野大吉が同窓柴田享一の篤志で蒐集した特別文庫「柴田文庫」(英社会思想史関連文献)を補完する目的で生前に堀により寄贈された。さらに死後、遺族によって寄贈された J. S. ミル、R. マルサス等のエッチング、ミルへの婦人参政権運動家からの感謝状(ともに図書館所蔵)等から成り立っている。

今回整理・保存・公開が可能になった史料・資料(以下、「堀文書」と略する)は、死後遺族から田中敏弘経済学部教授を経て、関西学院大学図書館に寄贈され、その後同図書館から学院史編纂室へ移管されたものである。

### III. 堀文書の構成

堀文書の構成は以下の通りである。

- 1) 手帳(一部日記を含む): 1923~1981(1927, 1933, 1949 欠)
- 2) 日記: 1923.08.19~12.29<留学日記>、1924.01.01~10.01<留学日記>、1925.02.09~17<スコットランド>、 cf. 留学期間: 1923~1925 年
- 3) 書簡(葉書含む) 436 通  
学会関係者に加えて、関西学院関係では、神崎驥一、矢内正一、今田恵、加藤秀次郎、志賀勝、東晋太郎、河上丈太郎、ミックル、久保芳和、田中敏弘らからの書簡簡が含まれている。
- 4) 講義ノート  
東北帝国大学、大阪商科大学、大阪商科大学予科、関西学院大学、関西大学等で教授された経済原論、経済学史、経済史などの講義ノートが含まれている。
- 5) 受講ノート  
京都帝国大学で受講した経済学史(田島錦治)、分配論・経済学史(河上肇)、農業経済(河田嗣郎)、財政学(神戸正雄)らの受講ノートが含まれている。
- 6) ブリティッシュ・ライブラリー等での筆記ノート

- 7) 抜き刷り
- 8) 原稿類(例:『明治経済思想史』)
- 9) ラジオ原稿 (JOHK < NHK 仙台 > : マルサス:1930.10.25、スミス:1930.11.17、1934.5.24、リカードウ:1931.10.28、1934.7.11)、
- 10) 講演会原稿(大阪商大、近鉄、教養講座、大阪商大夏期講習<「大東亜共同宣言」>)
- 11) 研究ノート・メモ・随想原稿(例:「学徒出陣の第二陣を承っておられる諸君に」)
- 12) 資料購入用リスト
- 13) 試験問題 東北帝国大学(大正14年)、経済学試験採点表(高等試験委員 堀経夫)
- 14) 『リカードウ全集』翻訳関連資料(訳出要領、刊行の辞、翻訳刊行委員会議事録)
- 15) 堀卓次郎自筆原稿(『国家論』『国家経済論』)および著書『法制経済綱要』1916
- 16) 弔辞(河田嗣郎、志賀勝、大石兵太郎、金子弘等)
- 17) 入学式・卒業式式辞原稿
- 18) 庭球部(部長) 関連資料
- 19) プレイス、ヒューム、コベット、オウエン、ゴッドウイン、ペイン、ミル、リカードウ、マルクス等の肖像写真・墓所写真
- 20) 家族写真(「ロンドンおける堀」等留学中の写真、「還暦記念小写真集」など)
- 21) 旅行用ファイル(T. Cook's International Traveler's Tickets 等)
- 22) 関学図書館旧蔵書籍・雑誌等(図書館印)
- 23) その他



#### IV. 堀文書の利用について

このような内容をもつ堀文書の内、河上肇による講義の筆記ノート(大正8年度)については、杉原四郎の『日本経済思想史論集』(1980)によって採り上げられており、さらに最近では堀のリカードウ研究については、Susumu Takenaga (ed.), *Ricardo and the Japanese Economic Thought: Selection of Ricardo studies in Japan during the interwar period* (Introduction: iv) Tsuneo HORI (1896-1981), chp. 4

Ricardo's theory of wages, 2016, Routledge) や 出雲雅志「戦前日本のリカードウ研究—1869-1929年試論—」(成城大学経済研究所『経済研究所年報』28号、2015年4月)によって、本格的に採り上げられている。もともと、これらの研究はこの「堀文書」を本格的に検討した成果ではないが、この「堀文書」は今後継続・深化されると期待される堀研究にとって、きわめて貴重な役割を果たすことは間違いないであろう。その点で、「堀文書」の整理・保存を積極的に担っていただいた学院史編纂室各位、とりわけ直接担当していただいた神田孝一、高木久留美各氏のご貢献はきわめて多大なるものであり、国内外の堀研究を促進することは疑いない。

【関西学院大学前学長】

堀先生は、かなり小さな文字でギッシリとノートをとっておられて、非常に几帳面な方だという印象を受けました。「学者とは斯くありなん」と思いました。複写機が未発達のせいもあったのですが、研究書を写し取ることが相当量行われ、同時にそのことにより、学問的な知識を吸収され、しっかりと身につけていかれたのだらうと思います。  
【神田孝一】

左:田島教授による「経済学史」受講ノートより

